

2023. 09

第87号

関西の林木育種

関西林木育種懇話会

ますます高まる林木育種の役割 ～令和5年度総会に参加して～

関西林木育種懇話会会長 植田 幸秀

今年の夏は平年に比較し1.76℃高く、観測史上最も暑い夏であったと云われています。また、近年の異常気象の多発や、それに伴う災害の発生など私たちを取り巻く地球環境の劣化を示す事象は枚挙にいとまがありません。それに加え、コロナ禍の猛威は国民の経済活動を始めとする様々な活動を大きく制約して参りました。こうした中、コロナ感染症が感染法上の五類相当へと位置づけが変わったこともあって、高知県の町を会場に4年ぶりの育種懇話会総会と現地視察（6月1～2日）を行うことができました。昨年は関西育種場のご支援により、技術講習会という形で開催することができましたが、やはり、新規会員を迎えての総会の開催は会員同士の交流にとって大変貴重なものでありました。



田中政晴会員による、受賞報告の様子

総会では、事務局から、私たち会員の中でも先輩格に当たる香川県さぬき市の田中政晴氏が緑化推進運動の実施について、顕著な功績のあった個人又は団体に贈られる「令和5年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」を受賞されたとの報告があり、会員一同祝意を述べさせていただきました。誌面をお借りしあらためて祝意を表したいと思います。おめでとうございます。

総会に引き続き、情報提供として五氏の方からそれぞれ、「高知県の林業情勢について」（高知県木材増産推進課長大野孝元氏）、「スギ第二世代精英樹候補木の初期成長評価」（高知県立森林技術センターチーフ 藤本浩平氏）、「いの町の森林・林業施策の概要」（いの町森林政策課長 野村考宏氏）、「関西林木育種懇話会会員との共同試験について」（関西育種場育種課長 磯田圭哉氏）、「ミツマタの育種」（関西育種場四国増殖保存園管理係長 山口 秀太郎氏）と題し、貴重な情報をいただきました。こうした情報提供は、育種支持という私たちの立ち位置からして極めて大切なもので、自身の林木育種支持活動の根本の一部を成すものであり、活動の輪を広げる動機ともなるものであります。

二日目はあいにくの荒天により、予定した「里山再生支援事業整備地」については室内で説明を受けることに変更し、その後、「いの町紙の博物館」を視察することができました。また、オプション視察として日程に都合のつく方は住友林業株式会社本山樹木育苗センターを視察さ

せていただきました。

話は少し変わりますが、総会の挨拶の中で述べさせていただいたことを、再度お伝えしたいと思います。それは、総会開催前々日の 5 月 30 日、政府が花粉症に関する関係閣僚会議を開き 30 年後に花粉の発生量の半減を目指すなど健康被害を押さえるための対策を公表したことです。政府の花粉症対策のポイントは、①30 年後に花粉の発生量の半減を目指す②花粉発生源のスギ人工林の伐採規模を現在の年間 5 万ヘクタールから 7 万ヘクタールに拡大し、10 年後に面積を 2 割程度減らす③10 年後には苗木生産の 9 割以上を花粉飛散の少ない品種にし、植え替えも進める④舌下免疫療法普及に向け、治療薬生産を年間 25 万人分から 100 万人分に増やす⑤人工知能などを活用し、飛散量予測システムの精度向上です。あらためて、吸収源対策のみならず花粉症対策においても林木育種の重要さは増しており、その責務は大きくなっています。

終わりにになりましたが、開催に尽力頂いた、いの町、住友林業株式会社、関西育種場に対しまして、誌面を借りまして謝意を述べさせていただきます。本当にありがとうございました。

第41回関西林木育種懇話会総会を開催

関西林木育種懇話会事務局

令和 5 年 6 月 1 日（木）～2 日（金）の日程で、高知県のいの町の「いのホール」において、第 41 回関西林木育種懇話会総会及び情報提供を開催し、「いの町紙の博物館」などの現地視察を行いました。また、2 日目午後には、オプション視察として「住友林業株式会社本山樹木育苗センター」（高知県本山町）を視察しました。コロナ禍で令和元年度以来、4 年ぶりの通常開催となりましたが、総会 20 名、情報提供 26 名、現地視察 18 名、オプション視察 18 名と多くの方の出席がありました。

まず総会では、植田会長より、「5 月 30 日に花粉症に関する関係閣僚会議で決定された『花粉症対策の全体像』の中で、10 年後にはスギ苗木生産の 9 割以上を花粉の少ない苗木とする等の方針が打ち出されている。今や吸収源対策のみならず花粉症対策の推進を含め、林木育種の持つ役割が大きく期待されており、同時に成果を問われることになってくる。関西林木育種懇話会としても、林木育種の技術開発を支持していく立場として、その成果が広く認められるように側面から応援していきたい。」との挨拶がありました。

続いて、懇話会顧問の古藤関西育種場長より、「関西林木育種懇話会は、林業経営に育種の成果を活かしていくことを目的に、昭和 58 年に設立され、今年は設立から 40 年目となる記念すべき年と伺っている。関西育種場では、民間事業者や府県等との連携は重要な課題となっており、そうした点から、40 年前から多様な地域や業種の関係者が参加する本懇話会はまさに官民連携の先駆的なケースといえる。関西育種場と懇話会会員との連携強化を図りながら、懇話会の活動充実に貢献していきたい。」との挨拶がありました。



総会の様子

議事では、令和 4 年度の活動、会計及び監査結果が報告され、さらに令和 5 年度の活動計画案と予算案、役員選任について提案され、満場一致で承認されました。

総会の終了後に、「令和 5 年度 緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」を受賞した香川県の田中政晴会員より受賞に至った経緯などのお話を頂きました。

情報提供では、高知県木材増産推進課の大野課長より「高知県の林業情勢について」と題し、高知県内の林業を取り巻く状況や再造林施策の具体的な取組及び課題点等及び採種園造成の状況について説明がありました。次に、高知県立森林技術センターの藤本チーフより「スギ第二世代精英樹候補木の初期成長評価」と題して、スギ第一世代精英樹と第二世代精英樹のそれぞれの種子から育苗したコンテナ苗の 7 年間の成長比較試験について紹介がありました。

続いて、いの町の野村森林政策課長より「いの町の森林・林業施策の概要」と題して、林業分野の人材確保のため、林業専門職の募集・採用や学生のインターンシップによる受入れなどを行っていること、環境先進企業と森林整備に関する協定を締結し、共同で育林作業を進めていることなどの紹介がありました。

続いて、関西育種場の磯田育種課長より関西林木育種懇話会会員との共同試験の取り組みと一部の結果についての紹介がありました。これまでに 8 者と 12 ヶ所の共同試験地を設定しており、そのうちの初期成長の早いスギ系統を植栽した試験地では、初期成長の早いスギ系統の人工交配家系が対照の一般流通苗に比べ、10 年次の材積が 1.36 倍となったことや、ヒノキ精英樹のさし木試験において、在来品種で初期成長が格段に早いと言われている上光 2 号より、10 年次材積が優れている系統があったことなどの報告がありました。

最後に、山口四国増殖保存園管理係長より、「ミツマタの育種」と題し、和紙や紙幣の原料として使われてきたミツマタが、過疎化により生産量が激減していることから、関西育種場において、生産性向上を目的として成長が良好で収量が多いとされるミツマタの 6 倍体の作出に取り組んでいることが紹介されました。ミツマタの 6 倍体はまず、通常の 4 倍体に薬品処理をし、8 倍体を作成し、さらに 4 倍体と 8 倍体とを交配し、その中から、作出された 6 倍体を用いるというものでした。質疑の中で、8 倍体は花が大きくなるため、園芸品種として用いても良いのではといった話がありました。会場では活発に質疑が交わされ、大変有意義な会合となりました。



情報提供の様子
(いの町 野村森林政策課長)



情報提供の様子
(関西育種場 磯田育種課長)

二日目の現地視察では、いの町の「里山再生支援事業整備地」を見学する予定でしたが、悪天候のため予定を変更し、いのホールでいの町森林政策課の中岡主幹から、里山再生支援事業整備地において、地域住民と連携して、竹林を改良しヤマザクラなどの広葉樹の造林地へ転換した取組について説明を頂きました。

次に、「いの町紙の博物館」（高知県いの町）を訪問し、館員から和紙の原料や紙漉きの方法や歴史について詳しく説明を頂きました。その後、紙漉きの技法の実際を間近に見学することが出来ました。

ここで、植田会長の閉会挨拶をもって、現地視察を終了しました。

午後には、希望者のみが参加する形で、「住友林業株式会社本山樹木育苗センター」（高知県本山町）のコンテナ苗生産施設等を見学しました。本施設では、播種した苗のセルトレイからのコンテナへの植え替え、コンテナ苗木の出荷まで、一連の流れで出荷する工程や苗木管理について、説明がありました。コンテナ苗の生産管理手法等を直接見る事ができたことで、より一層の理解を深めることができました。

最後に、総会と情報提供、現地視察に際し、いの町森林政策課をはじめ、沢山の関係者の皆様に御協力を頂きました。紙面をお借りして、心より御礼申し上げます。



現地視察の様子(いの町紙の博物館)



オプション視 察 の 様 子
(住友林業株式会社本山樹木育苗センター)

～新会員の紹介～

・海山林友株式会社

今年度から関西林木育種懇話会に入会させていただきました三重県の「海山林友株式会社」です。弊社は現在「尾鷲林業」の中心北牟婁郡紀北町を主に活動しております。数年前までは隣接する多気郡大台町「トヨタ自動車宮川山林（旧諸戸林産㈱）」の森林管理に携わって来ました。当山林は約半世紀前には諸戸林産㈱によって路網整備、機械化等を中心に先進的な林業を進めると同時に育種の研究が盛んに行われてきた歴史を有します。所有山林にはスギの適地が多いことから、その研究はスギに特化しており全国の精英樹が自社林に集められ、採種園、苗圃が整備され今も当時の面影が林内に残されています。一方の「尾鷲林業地」ですが痩せ地が多く、管内民有林の 90%強がヒノキ林で覆われており、並材を中心とした「量」を必要とする昨今においては大変不利な条件下で林業経営を強いられています。当林業地の成立は江戸時代まで遡り、「ヒノキ芯持柱材」を主たる生産目標に施業も体系化されてきましたが、その市場は激減し困窮を極める状態にあります。数年前より「尾鷲ヒノキ」の強度など特性を生かせる市場がないものと幅広く調査を繰返してきました。その中でも間伐材小径木への市場評価が非常に高いことから、その生産に努めると共に植栽本数（高密度植栽）、短伐期施業などを中心課題として慣習的施業体系の再検討も進めています。半世紀前の諸戸林産㈱におけるスギの選抜課題と同様、「通直性」を最重点課題に自社林から優良個体を選抜し、ヒノキの挿し木苗生産にも微力ながら取り組んでいます。

近年、育種に関しては特定母樹など大変興味深い研究が行政機関を中心に繰広げられ情報開示されていることから、研究成果を参考に一刻も早い現場への落とし込みが必要だと感じています。浅学な私どもですが今後も関西林木育種懇話会に集う研究機関、苗木業者諸氏のご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い致します。

・四国苗販売株式会社 代表取締役 大成 郁生(オオナル イクオ)

皆様、初めまして、四国苗販売株式会社代表の大成 郁生（おおなる いくお）と申します。まずは、弊社の紹介をさせていただきます。愛媛県上浮穴郡久万高原町で 2020 年（令和 2 年）4 月に会社を設立した創業 4 年目の会社です。業種は林業で、苗木の生育・植林作業・下刈り作業をおこなっております。弊社の主な事業拠点である久万高原町は、愛媛県の中でも林業が特に盛んな場所として知られております。会社設立のきっかけは、再造林に向けていく林業に対して担い手の確保と植林に伴う苗木の確保が要因でした。特に苗木については、苗木業者の減少により、植林したい本数をそろえられないという状況でした。このままでは伐採後の再造林が行えず、地域の林業が成り立たなくなります。弊社は、そのような状況を変えたい一心で会社を設立いたしました。設立当初は育苗及び植林に対しての知識と技術がないため、苗を枯らせたり、肥料・水を与えすぎたりと、植物の生育の難しさに頭を抱え、思うようにいかないことが多く、幾度と危機に直面しましたが、日々の自助努力の結果、今年 4 年目を迎え、なんとか胸を張って造林ができる会社となりました。

関西林木育種懇話会入会へは、愛媛県からの紹介もあり、是非皆様と親密な交流を築きあげていきたいと思い入会させて頂きました。林業は、単年周期とは違い、とても長い時間をかけて樹と向き合っていく仕事です。樹と同様、皆様とも末永くお付き合いさせていただきたいと思いますので、どうぞ今後とも宜しくお願いいたします。

・株式会社 林業伊東

令和 5 年度に関西林木育種懇話会に入会させていただいた (株) 林業伊東と申します。当社は高知県の町の旧吾北村にあり、周辺は自然豊かで木材資源も豊富にあり、会社の目の前には日本一の清流「仁淀川」の支流「枝川川」が流れています。

一緒に働いている仲間たちは現在 15 人おり、林産班が 2 班と造林班が 1 班、作業道開設班が 1 班という体制で施業しています。

また、腕立ちの社員が話題になり、高木の伐採 (空師) の業務もおこなっております。現在木材製品の流通が悪い為、原木の値段も下がっているため増産体制が取りにくい状況ですが、再造林にも力をいれ、持続可能な施業を目指しております。

《令和 4 年度退会会員》

- ・ (奈良県) ほんみち宇陀支部 加納真悟氏
- ・ (鳥取県) 赤堀農林 赤堀辰雄氏 (※赤堀宗範氏入会)
- ・ (香川県) 香川県林業普及協会 有馬督治氏

《会員の訃報のお知らせ》

有馬督治氏に於かれましては、御逝去されたとの訃報を受けましたので、ここにお知らせしますと共に、故人の御冥福を心よりお祈り申し上げます。

長い間、懇話会活動にご尽力いただき、誠に有り難うございました。

《令和 5 年度入会会員》

- ・ 海山林友株式会社 (三重県)
- ・ 株式会社林業伊東 (高知県)
- ・ 四国苗販売株式会社 (愛媛県)

《次回の総会及び現地視察開催について》

- ・ 開催予定日 令和 6 年 5 月下旬
- ・ 開催場所 三重県 (会場未定)
- ・ 現地視察 三重県 (視察箇所未定)

編集後記

令和 4 年度の退会者は、3 名でした。長い間、懇話会活動にご尽力をいただき大変感謝申し上げます。

令和 5 年度は、新たに 3 名の会員加入があり、9 月末現在で会員数は 21 名となっております。

寄稿していただきました植田懇話会会長、新規加入されました海山林友株式会社様、株式会社林業伊東様、四国苗販売株式会社様、大変有り難うございました。

今後も新規会員加入と会員からの投稿をお待ちしております。

関西の林木育種 第 87 号 2023.09

〒709-4335

岡山県勝田郡勝央町植月 1043

国立研究開発法人森林研究・整備機構
森林総合研究所

林木育種センター関西育種場内

関西林木育種懇話会事務局 編集・発行

TEL0868-38-5138 FAX0868-38-5139